

建設地：福島県福島市、二本松市、本宮市、伊達市、南相馬市

概要：木造/長屋/福島市 19 戸、二本松市 133 戸、本宮市 137 戸、伊達市 102 戸、南相馬市 112 戸/談話室/集会所/グループホーム型



建設中の仮設住宅群（二本松大平農村広場）

日本ログハウス協会 東北支部は、はりゅうウッドスタジオ・日本大学工学部浦部研究室と協働して、福島県産木材を用いたログハウスの仮設住宅を提案しました。

□提案

- ①ログハウスの持つ木肌の落ち着き感や温もりはもとより、
- ②ログハウスの可変性や木材としての再利用率の高さや幅（ログハウス以外にも利用できる）の広さが復興（住宅）へ続く物語となること、
- ③原発事故の影響で特に福島県が直面するかもしれない長期化する避難生活への対応から、自宅の他に住まいを持つ二地域居住やセカンドハウス・別荘地への発展といったプログラムにも対応できる仮設住宅の集落の計画を前提に考えました。

一方で、木造仮設住宅に入居されるであろう方々を予測すると、高齢者の方や、長く農作業に関係（第一次産業として専業・兼業や自給も含め）されている方々も多かったと考えました。そこで、仮設住宅の集落での生活をイメージしながらログハウスと歴史的な関係性も深く、その価値を高める意味でもクラインガルテン（共同菜園）を積極的に取り組んだ提案をしようと考えました。

これらの提案は県内各地で進むログハウスの仮設住宅 500 戸の建設と平行してログハウス協会が建設を行う敷地で現在実施されています。

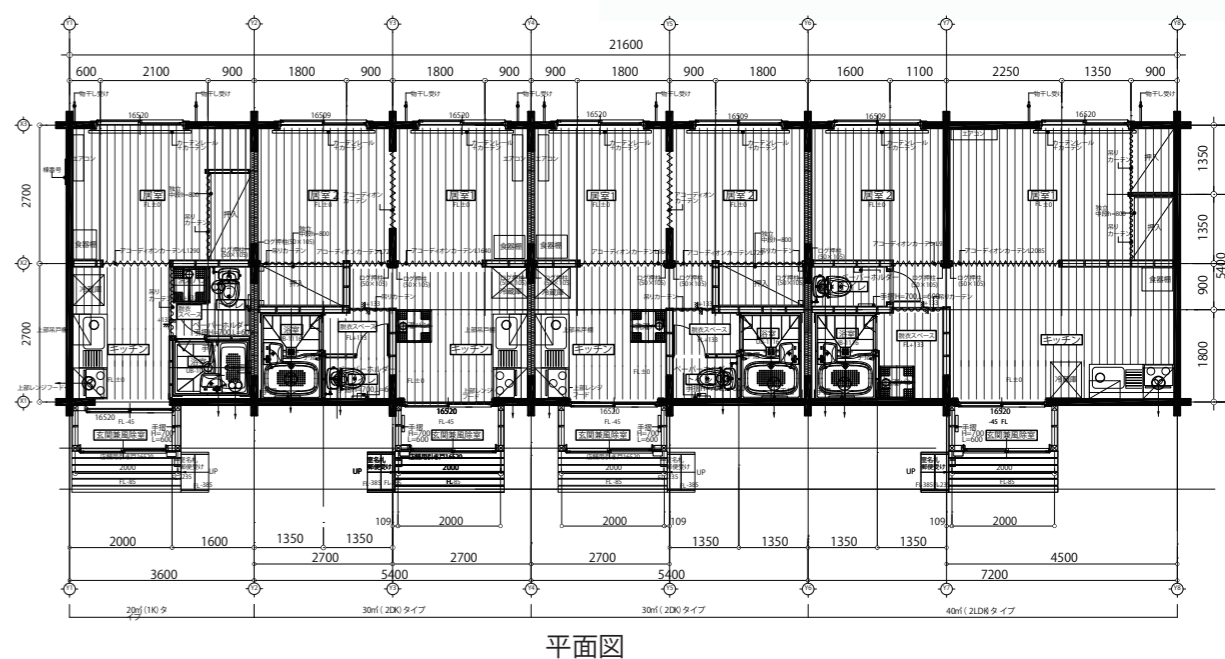
□住戸についての考え方

ログハウスのつくる空間の特徴を考えた場合、細かい間仕切りには対応しにくく、コスト高にも繋がります。そして、できるだけシンプルな空間とすることが、ログハウスの特徴を生かすことになると考えます。また、断熱性能についてはグラスウール 10kg50mm 厚と同等の断熱性能ですが、在来工法と比べて熱容量が大きいです。しかし、素材を直に表すため壁面通気と断熱ができにくい等の弱点もあります。今後の復興住宅としての活用を考えた場合、床と天井面の断熱と通気の確保を行い、通風の確保と雨がかりを考えれば、再利用による性能劣化が少なくなります。組立が容易にできて、木質仕上げ部分の経年変化が、生活の変化と重ね合わせられることができるかもしれません。そして、耐震性の確保、壁面断熱の均質化、調湿性能に優れ内部結露しにくい構造でもあります。材料は福島県産杉材で、地元の森林の生産サイクルを見込めます。保存環境が整えば、無機質な材料にはない、骨太で柔らかい資質を備えた地場産業工業規格品と成りうる素材であると認識できます。



仮設住宅の室内

仮設住宅の外観



平面図

⑦ フクシマ木造仮設住宅建設プロジェクト：三春町復興住宅をつくる会+JIA 福島地域会建設実行委員会

建設地：福島県田村郡三春町

概要：木造/長屋/旧中郷小学校（20㎡4戸、30㎡11戸、40㎡4戸）全19戸、駐車場19台  
 /萩久保団地（20㎡10戸、30㎡30戸、40㎡10戸）全50戸、駐車場50台

□設計コンセプト

応急仮設とはいいながら、避難生活の長期化も予想される住宅であるので、居住性の向上を最優先に整備することとします。

【材料】

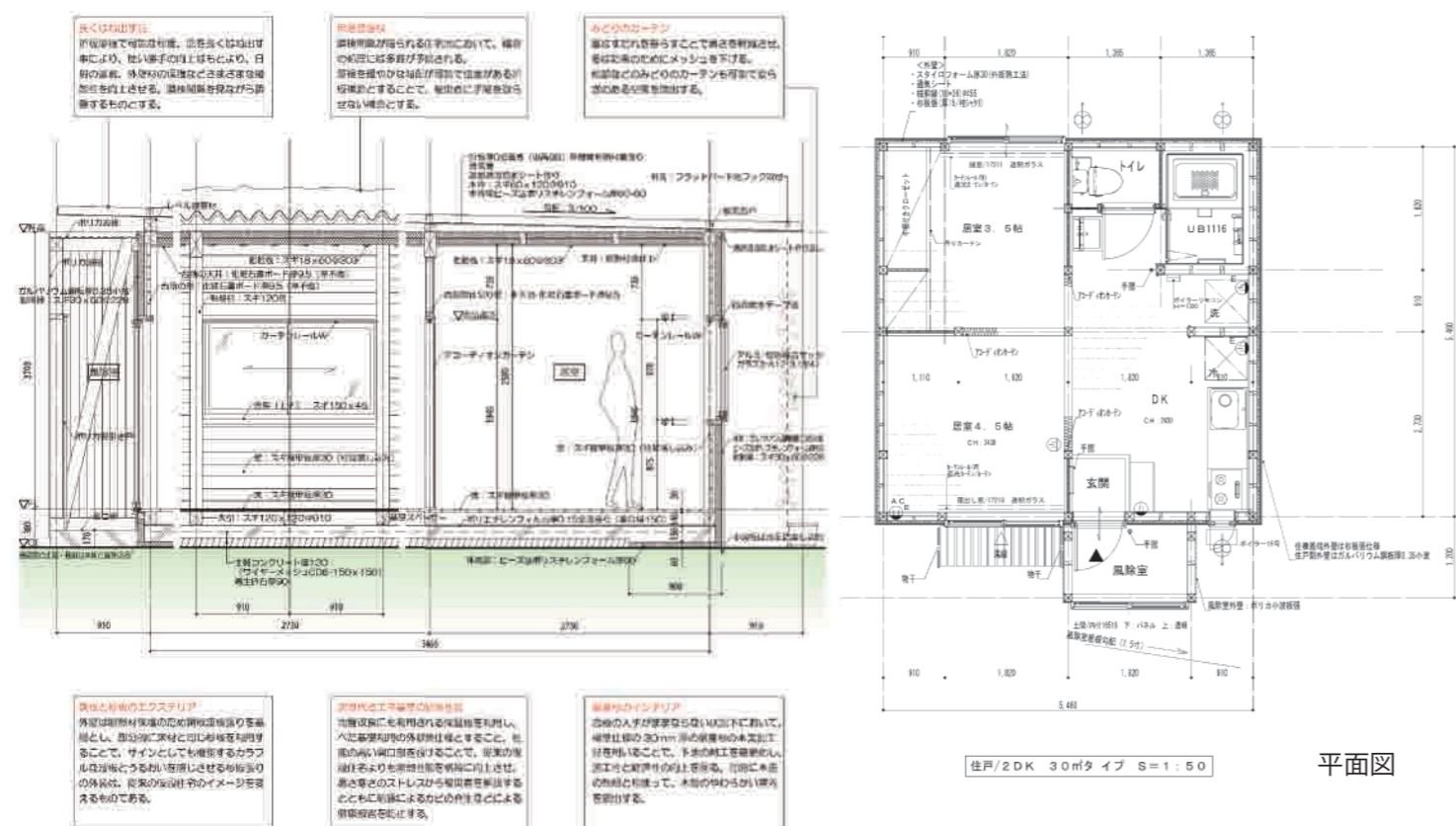
- ・福島県産の杉材を使用し、木の持つ温かさ、優しさを感じる住宅とします。
- ・杉材はもとより、各種県産材を使用することにより、地域の活性化を促します。
- ・現在入手可能なシンプルな素材の選択、組み合わせにより、性能向上に貢献します。

【性能】

- ・断熱性能は次世代省エネ基準同等とし、暑さ寒さを防ぐと同時に、健康的な空間を提供します。
- ・世帯間間仕切りは十分な遮音性能をもたせ、気兼ねなくつろげる空間を提供します。
- ・十分な長さの軒の出を確保し、使い勝手の向上、日射の遮蔽、外装の耐久性向上を図ります。

【間取り】

- ・浴室には洗面器を設けず、ゆっくりとくつろげるお風呂空間とします。
- ・トイレの仕切りはカーテンとすることで、高齢者などの介助にも有効なスペースを確保します。
- ・流し台（コンロ台を含む）は共通で 1800mm を確保し、多少でもストレスを軽減する間取りとします。



平面図



仮設住宅の立面



通路を通して見た仮設住宅群



仮設住宅の室内